

平成27年12月25日(金)
国土交通省関東地方整備局
東京都建設局
東日本高速道路(株)関東支社
中日本高速道路(株)東京支社

記者発表資料

東京外かく環状道路(関越～東名)事業連絡調整会議(第2回) 開催結果について

本日開催した、東京外かく環状道路(関越～東名)事業連絡調整会議(第2回)の概要をお知らせします。

会議の概要は以下のとおりです。

<開催日時・場所>

平成27年12月25日 8時30分～10時00分
九段第3合同庁舎11階 共用会議室3

<構成機関>

国土交通省関東地方整備局
東京都
東日本高速道路(株)関東支社
中日本高速道路(株)東京支社

<議事について>

議事の概要は別紙のとおり

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、都庁記者クラブ、埼玉県政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局道路部
道路計画第一課長 久保 尚也(くぼ なおや)
TEL 048-601-3151

東京都建設局三環状道路整備推進部
整備推進課長 水谷 正史(みずたに まさし)
TEL 03-5320-5171

東京外かく環状道路(関越～東名) 事業連絡調整会議(第2回)の概要(速報)

【別紙】

平成27年12月25日(金)
国土交通省関東地方整備局
東京都建設局
東日本高速道路(株)関東支社
中日本高速道路(株)東京支社

国土交通省関東地方整備局、東京都、東日本高速道路(株)関東支社及び中日本高速道路(株)東京支社の4者は、今回の事業連絡調整会議において下記の事項を以下のとおり確認した。

○用地取得について

- ・用地取得の進捗状況(全体用地取得率^{※1} 63%(H27.11末、面積ベース))
- ・必要な用地買収と区分地上権設定について、事業者と東京都建設局は協力して推進すること

○埋蔵文化財調査について

- ・埋蔵文化財調査の進捗状況(全体進捗率^{※2} 42%(H27.11末、面積ベース))
- ・事業者と東京都建設局は協力し文化財保護部局との十分な調整を行い、用地取得後、速やかな調査の実施に努めること

○工事について

- ・工事の進捗状況(3JCT部において本体工事着手済み)
- ・世界最大級の規模である地中拡幅工事について、安全やコスト縮減の観点を踏まえつつ、着実に推進していくこと

○用地取得、埋蔵文化財調査及び工事等について、以下のような課題があり、特に用地取得に最大限の努力をしていきつつ、引き続き、国、東京都、NEXCO東日本及びNEXCO中日本の相互協力のもと事業進捗を図り、東京オリンピック・パラリンピック開催までの開通の可能性について、引き続き検討していくこと。

【課題】

- 東京オリンピック・パラリンピック開催までの開通のためには、
 - ・大泉JCT部の買収部は、平成28年度半ばの用地取得及び埋蔵文化財調査の完了
 - ・東名JCT部の買収部は、平成29年度半ばの用地取得及び埋蔵文化財調査の完了
 - ・大泉JCT部及び東名JCT部の区分地上権部は平成29年度半ばの用地取得の完了が必要
- 本線シールドトンネルと連結路(ランプ)シールドトンネルを地下40m以深で非開削で繋ぐ部分である地中拡幅部の工事は世界最大級の難工事であり、相当の技術力を要すものであること

※1 用地取得の全体進捗率＝

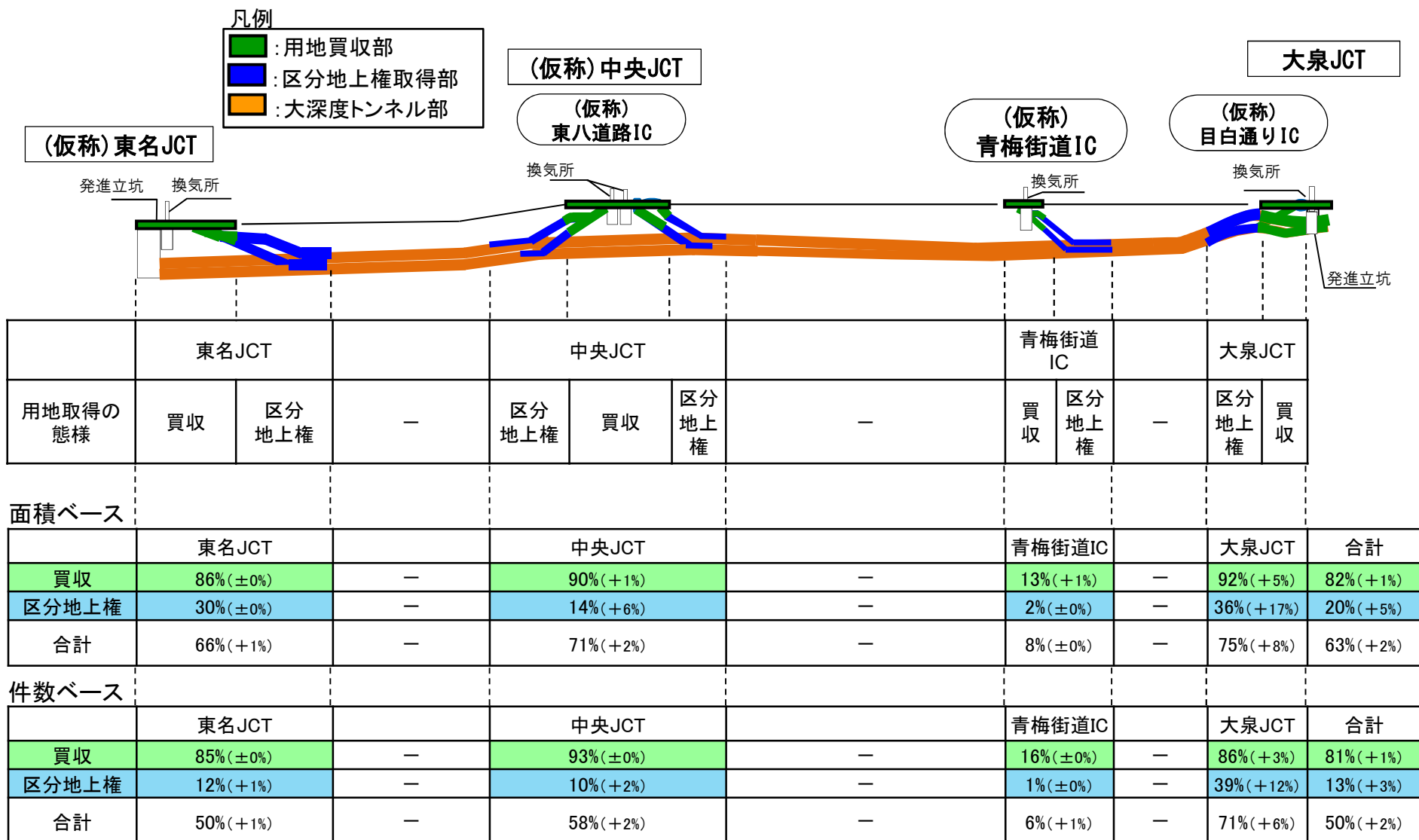
用地買収及び区分地上権設定済み面積／用地買収及び区分地上権設定対象面積

※2 埋蔵文化財調査の全体進捗率＝埋蔵文化財の調査済み面積／埋蔵文化財の調査対象面積

東京外環 用地取得の状況

H27年11月現在

資料1



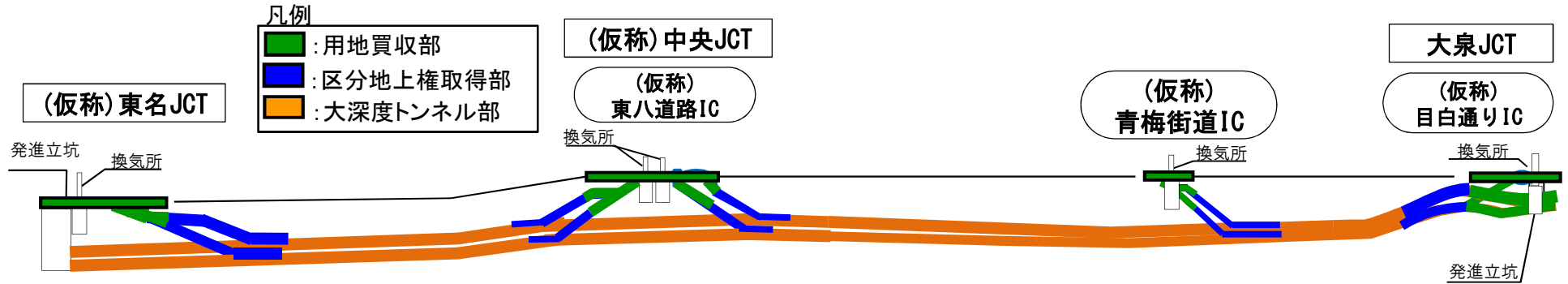
※用地取得は、国、東京都、NEXCO東日本、NEXCO中日本が分担して実施
 ※用地買収部については平成26年度より土地収用法に基づく収用手続きを活用中
 (事業者からの裁決申請・明渡裁決申立後は東京都収用委員会において手続きを実施)

※()内の数値は、H27年10月比

東京外環 埋蔵文化財調査の状況

H27年11月現在

資料2



埋蔵文化財調査対象地のうち着工可能な面積の割合

【H27年11月現在】

	東名JCT	中央JCT	青梅街道IC	大泉JCT	合計
進捗率	34% (±0%)	51% (+15%)	0% (±0%)	64% (+15%)	42% (+9%)

※東京都との調整により調査必要範囲を事前に確定
 ※調査必要範囲について、工事着工前に区市の立ち会いのもと試掘調査(確認調査)を実施し、その結果を踏まえ、必要に応じて東京都にて本掘調査を実施

※()内の数値は、H27年10月比

$$\text{※進捗率} = \frac{\text{調査済み面積}}{\text{調査対象面積}}$$

工事実施状況（大泉JCT）

H27年11月現在

資料3



用地取得の形態	用地買収部	区分地上権取得部	大深度地下使用部
---------	-------	----------	----------

工事実施状況（中央JCT）

H27年11月現在



中央ジャンクション南側シールドトンネル立坑工事
・ランプシールドトンネル立坑構築



中央ジャンクションランプ橋(下部工)工事
・橋脚の構築 等

H27東京外環環境対策工事
・防音パネル設置

東京外環中央JCT北側ランプ改良工事
・ランプシールドトンネル立坑構築
ランプ部地下躯体構築 等



中央道 ONランプ仮橋



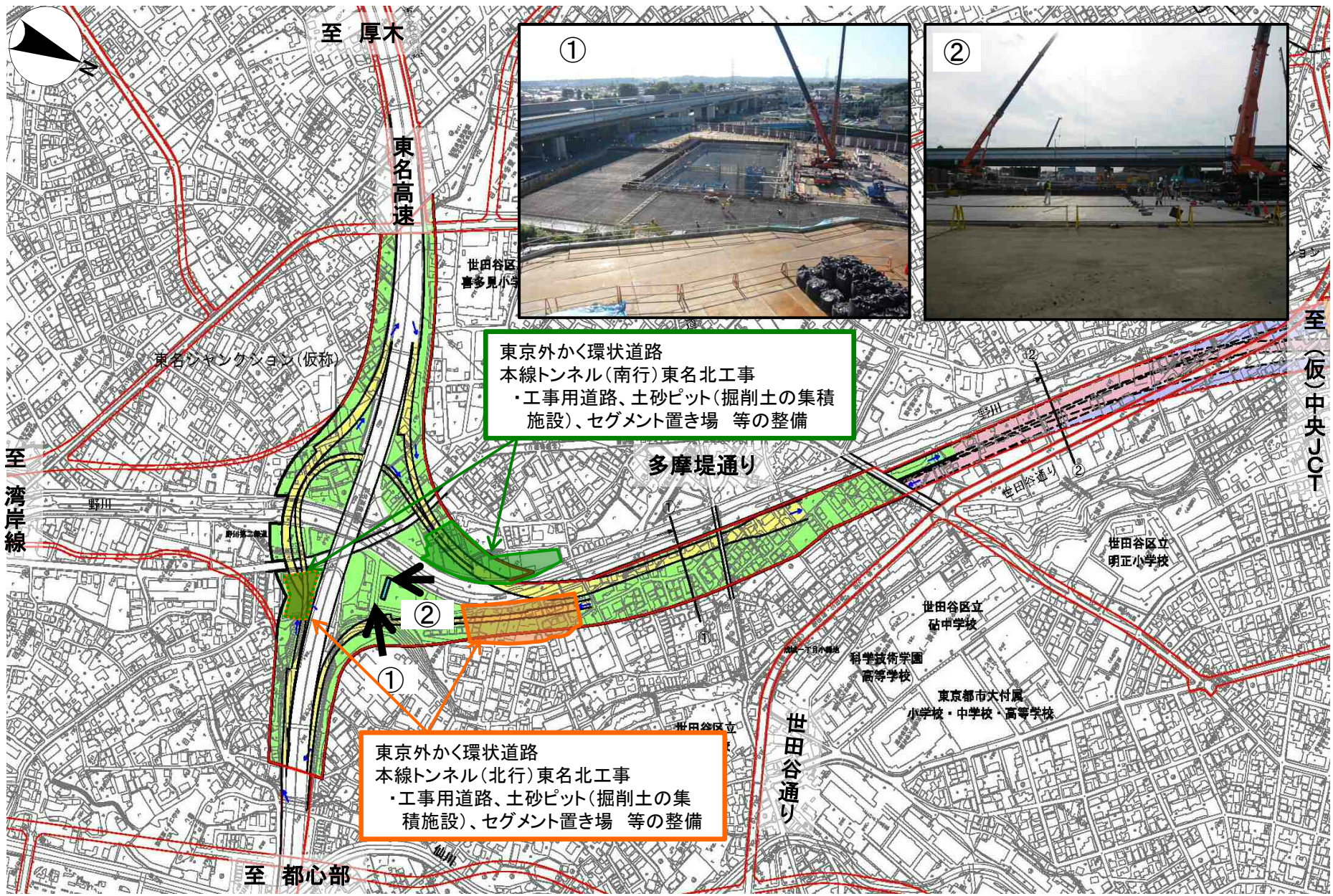
中央道 ONランプ仮橋

H26東京外環準備他(その1)工事
・既存道路の切り回し 等

用地取得の形態 用地買収部 区分地上権取得部 大深度地下使用部

工事実施状況（東名JCT）

H27年11月現在



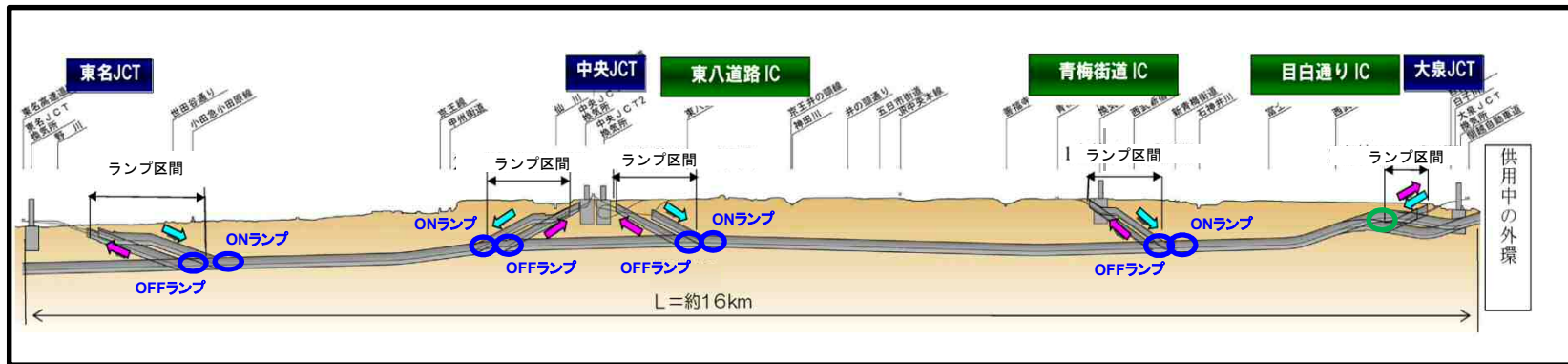
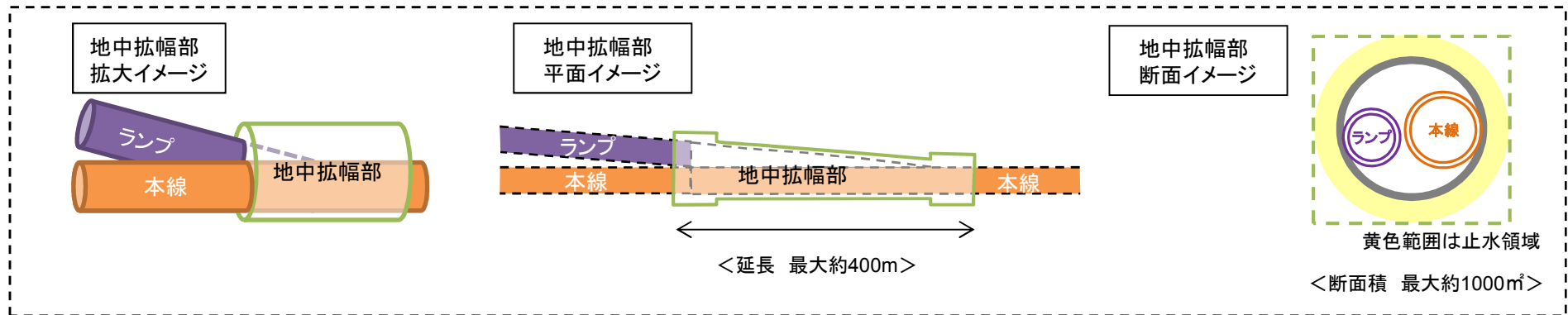
東京外かく環状道路
本線トンネル(南行)東名北工事
・工事用道路、土砂ピット(掘削土の集積施設)、セグメント置き場 等の整備

東京外かく環状道路
本線トンネル(北行)東名北工事
・工事用道路、土砂ピット(掘削土の集積施設)、セグメント置き場 等の整備

用地取得の形態 用地買収部 区分地上権取得部 大深度地下使用部

東京外環（関越～東名） 地中拡幅部について

- 地中拡幅部とは、地中で分岐・合流を行う計画となっている東京外環（関越～東名）のJCT・IC部において、本線シールドトンネルと連結路（ランプ）シールドトンネルを地下40m以深で非開削施工で繋ぐ部分（合計8箇所）
- 大深度の高圧力のなか地中でシールドトンネル同士を非開削によって切り拡げる、地中拡幅部の工事は世界最大級の難工事（断面積は約 $1,000\text{m}^2$ 、延長は約400m）



○ 地中拡幅部

○ 既存技術による本線とランプの地中切り開きあり

地中拡幅事例

○地中において、シールドトンネルから切り開きを行った※の事例(イメージ断面図)と比べ大断面であり、**世界最大級の規模**

※今後の予定を含む

断面積(m²)

1000

500

首都高速
中央環状新宿線

本線φ=約11m
断面約420m²

東京外かく環状道路
(関越～東名)

本線φ=約16m
断面約1000m²

横浜環状北線

本線φ=約12m
断面約260m²

首都高速
中央環状品川線

本線φ=約12m
断面約250m²

※横浜環状北線と中央環状品川線は、
大きさが同程度のため、ずらして記載

10

15

接続トンネル(本線)直径(m)

各種技術資料より国土交通省関東地方整備局作成

